

令和7年度(2025年度) 市立札幌病院一括公表

1 インシデント

レベル	件数		説明
	6年度	7年度	
レベル0	2,015件 (49.6%)	1,581件 (42.9%)	前もって気づいた事例(例:採血管が不足しているのに気がついた等)
レベル1	1,283件 (31.6%)	1,275件 (34.6%)	実害がなかった事例(例:薬の与薬時間が遅れた等)
レベル2	766件 (18.8%)	827件 (22.5%)	確認のための検査は行ったが、処置や治療を行なわなかった事例 (例:誤薬により追加の採血を行った等)
計	4,064件 (100%)	3,683件 (100%)	

2 アクシデント

レベル	件数		事例概要 ※レベルⅢb以上
	6年度	7年度	
レベル3a	207件 (93.2%)	199件 (90.0%)	○簡単な治療や処置を要した事例(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与等)
レベル3b	14件 (6.3%)	17件 (7.7%)	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサイン*1の高度変化、人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院、手術等) ① 杖歩行で歩行が自立している患者が、自己判断で杖を使用せずに歩行して転倒、右上腕骨頸部を骨折し、手術となった。 ② トイレで排便中に「意識が遠のく感じ」がして壁にぶつかり転倒し、左脛骨と左腓骨を骨折し、手術となった。 ③ 右内径静脈にCVポート*2を挿入した。12日後に呼吸時の違和感があり、右気胸であることが判明し、経過観察となった。 ④ 全身麻酔科で胸椎・腰椎の前方後方固定術*3を実施中に左肺の一部を損傷し、修復した。 ⑤ 床に落ちたものを拾おうとして病室内で転倒。硬膜下血腫を発症し、緊急左穿頭硬膜下血腫ドレナージ術*4を施行した。 ⑥ 気胸のため胸腔ドレーン*5を留置した。ドレーン留置後のCTでドレーンが左肺上葉に迷入していることが確認され、臨時手術でドレーンの抜去と縫合を行った。 ⑦ 苦痛軽減のために鎮静剤を持続投与した。開始2時間後に意識レベルの低下と血圧の低下を認め、昇圧剤を投与した。 ⑧ 尿道留置カテーテル交換時に尿道を損傷し出血した。再挿入困難で経皮的膀胱瘻*6を造設した。 ⑨ 朝食後に降圧剤を誤薬し、透析中に血圧が低下し昇圧剤を使用した。 ⑩ 全身麻酔による手術で皮膚腫瘍2箇所を切除予定のところ、1箇所を終了し、後日、局所麻酔で1箇所を切除した。 ⑪ 患者が引き戸タイプのドアの取手に掴まったところ、ドアが閉まりだしてバランスを崩し転倒。翌日に右大腿部の腫脹が出現し、右大腿骨頸基部骨折と診断され手術となった。 ⑫ 消化管穿孔*7により横行結腸瘻(結腸粘液ろう)*8を造設したが、術後のCT検査により胃瘻であることが判明し、閉鎖した。 ⑬ 認知機能の低下があり、転倒予防策を講じていたが、自発的に病室内を

レベル	件数		説明
	6年度	7年度	
			<p>歩行中に転倒。右大腿骨頸部を骨折し手術となった。</p> <p>⑭ 自発的に廊下を歩行中に転倒。左橈骨遠位を骨折し手術となった。</p> <p>⑮ 在宅用人工呼吸器の回路に不備があり、一時的に酸素飽和度が低下した。速やかにアンビューバックで換気し、酸素飽和度は上昇した。</p> <p>⑯ 右内径静脈に中心静脈カテーテル*9を留置したところ、右肺尖部に気胸を発症し右胸腔ドレーンを留置した。</p> <p>⑰ 全身麻酔下で両側前腕の切創の洗浄・壊死組織の除去・腱縫合術が終了し、気管内挿管を抜去した直後に呼吸苦を訴え、徐脈となった。再挿管の上、全身検索を行うが異常は発見されず、翌日、気管内挿管を抜去し、順調に回復した。</p>
レベル4	1件 (0.5%)	1件 (0.5%)	<p>○障害が残った事例 (事例の概要：過失なし)</p> <p>① 弓部大動脈瘤*10のためのステントグラフト内挿術*11を実施。術中に右大腿動脈以下の血流の低下を認めたため、血管を修復し、右下肢の血流は改善し、手術を終了した。帰室直後、左下肢急性動脈閉塞を発症、血管内治療、後脛骨動脈バイパス術を試みたが血流が得られず、左下足部壊疽による下腿切断に至った。</p>
レベル5	0件 (0%)	4件 (1.8%)	<p>○死亡となった事例（原疾患の自然経過によるものを除く） (事例の概要：過失なし)</p> <p>① 大腿骨骨折の手術翌日に心肺停止となり、救命処置を行ったが死亡に至った。</p> <p>② 腓体尾部切除術後に合併症である腓液ろうを発症した患者が心肺停止となり、救命処置を行ったが死亡に至った。</p> <p>③ 総胆管結石及びERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）後、膵炎の治療中であった患者が、洗面所で座位のまま心肺停止で発見され、救命処置を行ったが死亡に至った。</p> <p>④ 肺癌手術後の患者が、胸腔ドレーン抜去後に気胸を発症した。胸腔ドレーン再挿入後に心肺停止となり、救命処置を行ったが死亡に至った。</p>
計	222件 (100%)	221件 (100%)	

用語の説明

- *1 バイタルサイン:生命活動の状態を示す指標（血圧・脈拍・体温・呼吸数）
- *2 CVポート：薬剤を継続投与するため、胸部などの皮下に埋め込む小型の点滴用の器具
- *3 前方後方固定術：脊椎の安定性を高めるため、体の前面と背面の双方から固定器具を用いる手術
- *4 穿頭硬膜下血腫ドレナージ術：頭蓋骨に小孔を開け、脳を圧迫する血液（血腫）を体外へ排出する手術
- *5 胸腔ドレーン：肺を正常に膨らませるため、胸の中に溜まった空気や液体を排出する専用の管
- *6 経皮的膀胱瘻：尿道からの排尿が困難な際、下腹部から直接膀胱へ管を通して設ける排尿路
- *7 消化管穿孔：胃や腸の壁に穴が開き、消化液などが腹腔内に漏れ出している重篤な状態
- *8 横行結腸瘻（結腸粘液ろう）：大腸の一部を体表に出して作られた、便や腸液を排出するための人工肛門
- *9 中心静脈カテーテル：高濃度の薬剤投与や採血を目的とした、心臓付近の太い静脈内に留置する細い管
- *10 弓部大動脈瘤：心臓から出た直後のアーチ状になった太い血管（大動脈弓）に生じたコブ
- *11 ステントグラフト内挿術：血管の内側から人工血管を装着し、動脈瘤の破裂を防止するカテーテル治療

レベル1～5 インシデント・アクシデント 種類別割合（表題別でグラフを掲載）

